

本年中のご指導、ご支援に心から感謝申し上げます。

月日の経つのは早いもので、2019年・令和元年はあと4日で幕を閉じようとしています。改めまして、本年中のご指導、ご支援に心から感謝申し上げます。

本年4月の統一自治体選挙では、皆様のご支援により引き続き県政の場へと送って頂きました。お蔭をもちまして、『5月臨時県議会』で第81代副議長に選出されました。

県議会副議長となり半年が過ぎました。これまで6月・9月12月の県議会にあたり、栗原議長とともに円滑な運営に務めて参りました。また、県内60ある市町村も数多く回らせて頂き、様々な催しや各種大会等にも出席させて頂きました。

引き続き、県民生活の向上、安全・安心な郷土づくり、県政の更なる発展に邁進して参る決意です。今後とも皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い致します。

慶賀が続く半面、自然災害が多発した一年でもありました。

振り返ってみますと、2019年・令和元年も様々な出来事がありました。

1. 新天皇即位、「令和」時代が始まる。

本年4月30日、憲政史上初となる今上天皇退位による天皇代替わりとなり、5月1日に皇太子徳仁親王が新天皇に即位、元号も「令和」に改まりました。

この新元号「令和」の出典となったのは日本最古の歌集である「万葉集」の「梅花の歌三十二首」であり、「初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫す」から引用されていますが、日本の古典に由来する元号は初めてとなります。

ちなみに、新元号「令和」誕生の舞台となったのは福岡県の太宰府です。九州の各国を統括する大宰府の長官であった大伴旅人が盛大な雅宴を開催、これが「梅花の宴」と言われていますが、その宴の場所が「坂本八幡宮」であったという事です。

4月30日の「退位礼正殿の儀」以降、新天皇即位による皇位継承の儀式は11月の「大嘗祭」まで続き、日本の文化・伝統が世界的に注目された1年でした。

2. 「ラグビーワールドカップ2019日本大会」開催される！

「RWC2019日本大会」は9/20開会～11/2の決勝戦までの約2か月間、全国12都市・会場で熱い戦いが繰り広げられ、日本中を熱狂の渦に巻き込みました。公式キャッチコピーは「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」で、日本チームのスローガン“ワン・チーム”も今年の流行語大賞に選ばれました。

日本チームの活躍(W杯初のベスト8進出)とも相まって、観客動員数は170万4,443人(台風の影響により中止となった3試合を除く)、ファンゾーンの累計来場者数は約113万7,000人と、過去の大会を凌駕する観客動員数となり、「ワールドラグビー」も日本大会の成功を宣言しました。

南アフリカの3度目の優勝で幕を閉じましたが、今大会では日本流の“おもてなし”が各国のメディアや識者、ファンから高く評価されました。